

「安心・活力・発展プラン2015」見直し委員会 第1回活力部会 委員意見要旨

No.	項目	発言要旨
1	人材確保 (農業)	<ul style="list-style-type: none"> ・山間地で、人材がいないので外国人技能実習生をやっているが、儲からないと人が残らない ・高校で農業を教えている先生方に農業への理解促進をお願いしたい ・将来の農業の担い手を育成してほしい
2	人材確保 (農業)	<ul style="list-style-type: none"> ・県内高校は難関大学への進学率が高校の評価につながり、結果、県内に人材が残らないというのは課題 ・人材不足は深刻、外国人技能実習生も順調に入っていない ・そこでロボット開発に着手、できないと決めつけず、その時どう考えるかということが大事
3	人材確保 (畜産業)	<ul style="list-style-type: none"> ・「おおいた和牛」を立ち上げ、食べておいしい肉づくり、「食」をテーマに掲げている ・一方、畜産業は県内就職率も低く、人材不足 ・繁殖は若手も出てきているが、肥育は高齢化が進み後継者不足、全国的にもよろしくない ・後継者がいるところは儲かっているところ ・いかに若手が残りたいという企業づくりをするか、改善が必要
4	人材確保 (林業)	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の林業で、森林所有者は利益が出ない ・森林組合法では、組合は利益を追求してはならないことになっており、民間事業者と肩を並べて営業しては勝負にならない ・人を集めるには、儲けることも必要だが、夢、プライドを持って働けるかというのも大事 ・その上で、ある程度賃金を払える形を進めることも必要 ・製材工場に挑戦したい
5	起業	<ul style="list-style-type: none"> ・日本は、起業するには非常にシビアな国 ・「ワンストライク・アウト」とよく言われるが、やり直す機会が少ない ・民間が、自分で会社を起こせば一生懸命人材を集める ・起業の数がわかる資料が欲しい ・起業の数ということで捉えていただけると、ある程度人材の数は伸びていくのでは
6	中小企業	<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業には経営戦略が必要 ・中小企業の問題は、計画を立てるのが弱いところ。決算書では年一回しかわからない ・県内中小企業のため、自社の情報を開示してもよい
7	OITA4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・姫島に来て15年目 ・情報通信環境で、ネットワーク回線を少しでも太く、速くしていただければ
8	OITA4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・5年後を予想するのは難しいが、企業の立場から考えなければならないのは「情報社会」 ・特に5Gに備えて大分県の準備はどの程度できているのか、というのは重要 ・5Gにより全く違う働き方が実現、それらを想定した準備が必要
9	先端技術	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ公園等について、先端技術を活用しながら民間含めてもっと活用すべき ・観光でも、スポーツツーリズムなどで先端技術を活用してスポーツ公園を利用できるような取組を実施すべき

No.	項目	発言要旨
10	先端技術	<ul style="list-style-type: none"> ・IT関連の教育が必要な教員が多いことは、教育現場の課題 ・地域活性化のキラーコンテンツの一つとして、「大分はIT教育の先進県」というような教育現場を作れないか ・他県から子どもとともに移住するきっかけにもなり得るほどの施策を検討すべき ・子どもが遊びと混同できるような、先進的な「ITリテラシー向上教育」に予算・設備を使えないか ・県内IT企業同士のつながりを作り「子どもを育てるという良質な目的」に向かい、仲間意識や情報交換を活発にする
11	人材確保 (大学生)	<ul style="list-style-type: none"> ・やる気のある若者をサポートできる環境(大人)が重要 ・県内で若者が楽しめる場所はあるか ・APUは人材のつぼ、彼らをどうやって活動してもらうようにするか ・学生向けサービスを充実させることにより、周辺の人々やサービスも発展するのでは
12	人材確保 (大学生)	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の視野は狭く、もっと県内企業の魅力をもっと知ってもらうことが必要 ・大学は各地域ともっと密接に繋がることが求められており、大分県の企業の魅力がわかるような教育と一緒にやっていきたい
13	人材確保 (観光産業)	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊業界では、特にワーカーが人材不足 ・外国人客が35%程度にもなり、コミュニケーションが取れる人材も不足 ・高卒、短大卒はコミュニケーション能力が低い ・そのため社内で外国人社員等と相互教育できる仕組みを作り対応 ・日本人のシングルマザー・シングルファザーの労働者は多いが、宿泊業は働きにくい
14	働き方改革 (観光産業)	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊業では、朝早く夜遅い、中抜けも長いなど、一般の方からは敬遠されやすい ・中抜けから二交代制への構造改革など、少しずつ進めているところ ・特に別府は、県外資本が増え、賃金体系も高いことから人がそちらに流れるため、賃金体系を見直す時期に来たのかもしれない ・サービス産業にとって働き方改革は難しいところもあり、賃金体系の見直しなど一緒に考えて欲しい
15	子育て 女性の活躍	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを産むことと女性が活躍することが本当に反比例している ・家庭では、家族で子どもをどう育てるかということを協力していかなければならない ・どうやったらたくさん子どもを産み育てられるかということ、社会全体で考え、やっていかなければならない
16	子育て 女性の活躍	<ul style="list-style-type: none"> ・東京では、仕事の忙しさと子育ての両立は不可能と感じ移住した ・竹田では、自分の納得いく仕事をしつつ、子どもの近くに居られる
17	子育て 女性の活躍	<ul style="list-style-type: none"> ・他県と同じ、国に基づいた政策を実施するのではなく、「大分県らしい」働き方、子育てというものかどうか、しっかり皆さんが捉え、伝えて欲しい ・「人を育てる」という観点を強く持っている県だからこそ、人が生き生きと働いて暮らせる、そういう環境づくりという視点で政策も入れていただきたい
18	インバウンド	<ul style="list-style-type: none"> ・旅館の後継者がいないのは、旅館に魅力がないから ・魅力向上のため、働き方を改革、そのための稼働率向上が必要 ・稼働率を上げるためにインバウンドの受入を増やしているが、事業者によって温度差がある ・日常的に外国人と触れ合う機会、国際交流の場を増やすことが必要
19	人材育成 (観光産業)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学でマネジメントを学ぶことはあるが、もう少し「人をもてなす心」を学ぶ機会を、高校でも設けていただきたい ・接客業の裾野を広げるため、高校生を鍛える教育をして欲しい

No.	項目	発言要旨
20	温泉	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉は本当に素晴らしいということ、もう一歩踏み込んでPRできるとよい ・温泉以外にも素晴らしいものがたくさんあり、それを温泉と結びつけてPRするなど ・「新・湯治」やJALの「ワーケーション」など、温泉を何かの切り口で売り出すことも ・コワーキングスペースができたことにより、若者の出入りが増え、宿の再生に結びついている ・長期滞在には、気軽によれる食事処が必要
21	ツーリズム	<ul style="list-style-type: none"> ・豊後大野市の基幹産業は農業だが、今後、若い世代が農業で食べていけるか ・5～10年後に、周りに何人住んでいるかという状況であり、今手を打つことが必要 ・外から人が来て、お金を落としてもらえる仕組みづくりが必要 ・豊後大野に来た人は、次に高千穂、阿蘇に行く人が多く、県内に滞在することになっていない ・広域で連携する組織、機能の検証、ツーリズムの見直しをお願いしたい
22	戦略的広報	<ul style="list-style-type: none"> ・大分県は魅力的なところだが、販売においても大分県民は控えめでPRが足りない ・山、川、田畑など当たり前のものをPRしてほしい ・県のツイッターでは画像・動画がほぼない、使えるツールを使いこなしていない
23	戦略的広報	<ul style="list-style-type: none"> ・webやSNSによる情報発信では旅行者の発信も重要、旅行者は旅行者の口コミを見ている ・訪れた旅行者が、発信しやすい仕組みづくりが必要
24	戦略的広報	<ul style="list-style-type: none"> ・企業にとってよりよいものを作る、サービスを提供するためにリソース優先させることは当然 ・結果、広報経費の優先順位が低くなることは当然であり、その部分へのサポートは必要 ・一方、PRが単発になっている印象、「大分」というキーワードで繋がっておらずもったいない印象